

光り輝くゴールド集落

市では、過疎化や高齢化が進むゴールド集落(限界集落)について、地域が抱える課題の解決と、市民が住み慣れた地域に安心して住み続けられる地域づくりを推進することを目的に、ゴールド集落活性化条例を平成22年に制定し、さまざまな支援を行っています。

今回は、ゴールド集落活性化事業を活用して、上甕地区、西山地区で活動している事例(団体)を紹介します。

※ゴールド集落とは？

毎年1月1日現在の住民基本台帳に登録された65歳以上の人口割合が、50%以上の自治会の区域で、本市独自の呼称です。

平成25年度は、85自治会がゴールド集落に該当しています。



上甕町江石自治会(上甕地区)

自分たちが子どもの頃に楽しんでいた、昔から伝わる「えびす祭り」を伝承させる活動に取り組んでいます。

祭りを伝承させる活動や自分たちの身近な存在である海や漁業に関する活動を通して、子どもからお年寄りまで、笑顔で一緒になって楽しめるように、自治会の活性化にも取り組んでいます。

■平成22～24年度の事業内容

会場(漁港)の清掃、子どもたちとの餅つき、えびす祭りの開催

【えびす祭り】：海の安全と豊漁を祈願する祭り
20隻の船団のパレード、縁起物の餅まきなどが行われる。



▲にぎやかな声が自治会内に響き渡りました。

シンヌウラおこし(西山地区瀬々野浦)

高齢者が多い地区を活性化するために、地域資源を活かした特産品の開発や地区の資源を紹介したマップ作成に取り組んでいます。また、NPO法人とも連携して、モニターツアーを行っています。



◀ごちそうサンドは、うんまか～

【ごちそうサンド】

集落に伝わる、お祝い事で食べられる具だくさんの田舎寿司を現代風にアレンジしたもの



▲▼地元のおばあちゃんと一緒にえぼうき(家ほうき)づくり



【問合せ先】=本庁コミュニティ課コミュニティ・生涯学習グループ ☎(23)5111(内線4613・4614)

いきいき

第3回
乳幼児突然死症候群

健康情報

このコーナーでは、市民の皆さまの健康づくりに役立つ情報を掲載します。

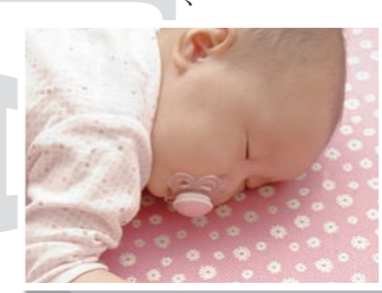
乳幼児突然死症候群とは

乳幼児突然死症候群(以下、文中では、SIDS: Sudden Infant Death Syndromeと表記)は、それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく、眠っている間に突然死亡してしまう病気です。

日本での発症頻度は、およそ出生6～7千人に1人と推定され、生後2カ月から6カ月に多いとされています。発症は年々減少傾向にあります。平成23年には全国で148人の赤ちゃんが亡くなっています。SIDSの原因はまだわかっていません。

うつぶせ寝は避けましょう

うつぶせに寝かせたときの方が、あおむけ寝の場合に比べてSIDSの発症率が高いと報告されています。うつぶせ寝がSIDSを引き起こすものではないが、医学上の理由でうつぶせ寝を勧め



られている場合以外は、赤ちゃんの顔が見えるあおむけに寝かせるようにしましょう。

たばこはやめましょう

たばこは、SIDS発生の大きな危険因子です。妊娠中の喫煙は、おなかの赤ちゃんの体重が増えにくくなりま

できるだけ母乳で育てましょう

人工乳(ミルク)がSIDSを引き起こすわけではありませんが、赤ちゃんが、喜んで飲み、体重が順調に増えているなら、できるだけ母乳を与えましょう。



いっぱい育てましょう。

なるべく赤ちゃんを1人にしないで

○赤ちゃんを1人にして外出しないようにしましょう。
○なるべく赤ちゃんと同じ部屋で寝るようにしましょう。

寝かせ方に関しては次のようなことにも注意しましょう

- 寝具は固いマットを使用し、枕は使わないようにしましょう。
- かけ布団やタオル、ひもなどが顔にかからないようにしましょう。
- ベッドの周りには、ガーゼやビニールなどを置かないようにしましょう。
- 日中の短い眠りでも柔らかいソファなどに寝かせることはやめましょう。